

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2024. 2. 9
No.53 文責 荒木秀

課題をどう設定するか？

前号のまとめとして、「子どもたちが課題を自分事としてとらえ、夢中になれるということが大切」と書かせていただきました。子ども自身が、自分と課題をつなげていくことが大切だということですね。6年生がSUWのふり返りをしたところ、「またやりたい。」「国語とか算数と違って楽しい。」のようにほとんどの子が好意的に捉えていました。「国語とか算数の勉強と何が違うの？」と問い返すと、「SUWは、自分がやりたいことだから。」と教えてくれました。自分と課題がつながっている（もしくは、課題が自分自身の中から生まれている）ということは強いですね。

では、課題作りから子どもたちに任せて授業を進めていけばいいんでしょうか？それについては、土田先生が示してくれた初任研だより26号の「特集 学ぶ意欲を引き出す工夫 教材(学習材)のおもしろさに触れさせ、学ぶ意欲を引き出す」で、兵庫教育大学 吉川芳則教授が以下のように書いています。

学習課題の設定については、子どもたち自らが学習課題を作って、それに基づいて授業を展開していくのがよいとする意見がある。教師が与えた課題によるのでは、子どもたちの主体性が保障されないというのである。

しかし、こうした方式は、一見学習者の思いや読みを大事にしているように見えるものの、問題点も抱えている。それは、**子どもたちにどれほど当該教材の本質を読むのにふさわしい課題を設定できるのか**、ということである。

これは、教員生活を何年か経験された先生方なら納得されますよね。「学校あるある」ですよ。 「え～、『子どもたちが課題を自分事としてとらえ』と言っておきながら、子どもたちに任せきりもダメなの～。じゃあ、どうするの～？」と感じられたフレッシュなみなさん、ぜひ先輩方に話を聞いてみてください。話好きな先輩方が、きっと答え（いや、「答え」ではないですね。その人の「考え」ですね）を教えてくれると思います。そして、その輪が広がれば、あなたが今いる場所はもう「学びカフェ」ですよ。たくさん話を聞いて、自分なりの「納得解」を見つけてください。「資質・能力（つきたい力）」と「教科の見方・考え方」と「課題」と「活動」の関係かな…難しい。

ちなみに、荒木は校長先生がおっしゃる「与える（ギブ）教育よりもつかませる（キャッチ）教育が尊い」が大きなヒントになるのかなと考えています。校長先生、どうでしょう？